

工業科新規採用教員研修会

「発達障害の理解と基本的支援について」

特定非営利活動法人PeerNet(理事長)
和歌山県臨床心理士会(理事)
関西福祉科学大学・大阪歯科大学
奈良大学・関西医療大学(非常勤講師)

小山 秀之

(教育学修士・公認心理師・臨床心理士・社会福祉士)

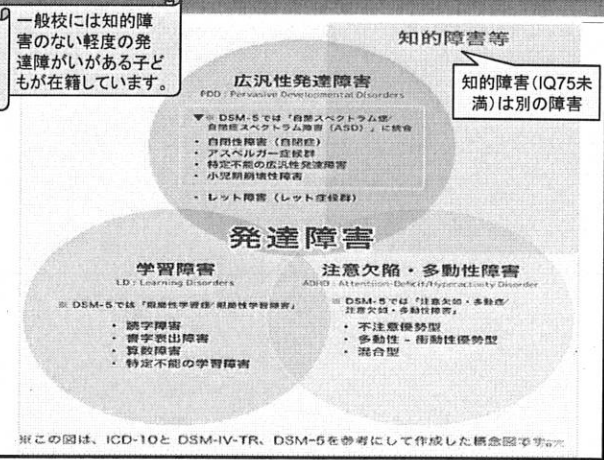
はじめに

発達障害者支援法

★発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的としている(2005年施行)

★その後、発達障害者支援法は2016年に医療・保健・福祉・教育・労働の緊密な連携、つまり切れ目のない支援を目指して改正。

発達障害とは、発達障害(自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの脳機能の障害で、通常低年齢で発現する障害)がある者であって、発達障害及び【社会的障壁により】(新)日常生活または社会生活に制限を受けるもの。



各障害の基本的な特徴と支援の考え方

自閉症スペクトラム	ADHD (注意欠陥多動性障害)	LD(学習障害)
アスペルガー症候群や自閉症など、人付き合いや会話が苦手。不安を取り除くように推し、苦手なことも予習することで子どもを安心させる。	集中力がない、注意力に問題がある。親は子どもをなるべく褒めるようにし、集中力が続くよう興味を育てることを見つけてあげるサポートを!	子どもによって読書が苦手、書くことが苦手、算数が苦手など苦手なものが異なるため、それぞれの内容に合ったサポートが必要!

詳しくは後述します。

合理的配慮についての(文科省HP)

定義:「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」

「合理的配慮」の提供として考えられる事項

- (ア) 教員、支援員等の確保
- (イ) 施設・設備の整備
- (ウ) 個別の教育支援計画や個別の指導計画に対応した柔軟な教育課程の編成や教材等の配慮

合理的配慮の例(文科省HP)

情緒障害

- ◆個別学習や情緒安定のための小部屋等の確保
- ◆対人関係の状態に対する配慮(選択性かん黙や自信喪失などにより人前では話せない場合など)

LD、ADHD、自閉症等の発達障害

- ◆個別指導のためのコンピュータ、デジタル教材、小部屋等の確保
- ◆クールダウンするための小部屋等の確保
- ◆口頭による指導だけでなく、板書、メモ等による情報掲示

共生社会に向けて(文科省:H24)

特別支援教育は、以下の①から③の考え方に基づき発展させていくことが必要

- ① 関係機関との連携を強化し、障害のある子が十分な教育を受けられるよう充実を図ること
- ② 地域での生活基盤を形成することが求められていることから、可能な限り共に学ぶことができるよう配慮すること
- ③ 障害者理解教育を学校が率先して進めることは、インクルーシブな社会の構築につながる

発達障がいがある子の課題

発達に課題がある子とない子の違い(辻井)

発達の課題がない子ども

- ⇒日常生活の失敗又は成功体験をくり返す中で自然に学んでいく(または、自分で工夫して学ぶ)。

発達に課題がある子ども

- ⇒日常生活の失敗からなかなか学べない。他の人の手助けやツール等があって学んでいく。

発達障がいの人が直面する課題(梅永)

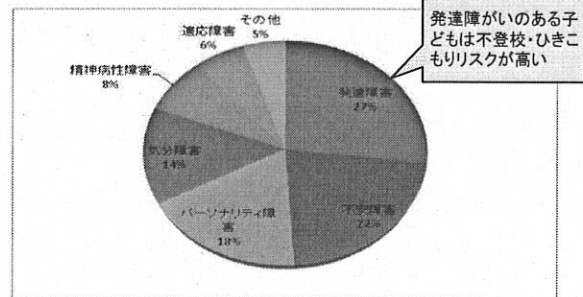
《学齢期》

- ・虐待やいじめ、不登校、など様々(いじめはほとんどの場合経験する)
- ・不適切な行動による叱られ、失敗体験の積み重ね
- ・自尊心を損ない、「生きづらさ」を感じているケースが多い

《就労期》

- ・ニートの人が多い
- ・フリーターとして働くと、多くの場合対人関係でつまづく(知的障害がない人の場合、就職しても長く続かないことが多い)
- ・知的障害がある人の場合、就職するまでが難しいが、いったん見つかったと続くことが多い(特例子会社の台頭が大きい。ジョブコーチや企業による構造化が上手くいっている)

精神保健福祉センターひきこもり相談 来談事例の精神医学的診断



自閉症について

自閉スペクトラム症 (DSM-V)

対人的コミュニケーションおよび対人的相互交流の障害

限局された反復する行動や興味

自閉症の特性

文字通りの解釈

見通しを持つことの困難さ

刺激・情報の影響

情報を整理することへの困難さ

経験したことへの修正の困難さ

課題等を成功体験で終わらせる(うやむやにしない)。失敗したら、その場ですぐに指摘・修正し、やり直しの場を与え、できたら褒める。

ASDの子どもの具体的な特徴①

- ◆言葉が出ない、出てもオーム返しとなる
- ◆ごっこ遊びがない(ままごと遊びなど)
- ◆注意の持続が難しい
- ◆名前を呼ばれても返事をせず、他人に無関心
- ◆激しいカンシャクを起こす
- ◆アイコンタクトが少ないか全くない
- ◆手をひらひらさせたり、身体を前後に揺すったりする行動がある
- ◆一つのこと(扇風機など)に固執する
- ◆変化を嫌う(急に予定が変わるとパニックを起こす)
- ◆ある特定の音や臭いに敏感または鈍感(感覚過敏・鈍麻)

ASDの子どもの具体的な特徴②

- ◆友達がいない
- ◆友達が欲しいと思わない(興味がない)
- ◆友達が欲しくてもその作り方がわからない
- ◆表情のような社会的コミュニケーションを読むことができない
- ◆自分と異なる他人の感情を読むことができない
- ◆興味の範囲が狭い(時刻表、電話帳、ゲームのように)
- ◆運動神経が鈍い、不器用
- ◆変化に弱い
- ◆機械的、ロボットのなしゃべり方をする
- ◆人の気持ちを無視してしゃべり続ける

その他の特徴

- ◆猫背などの姿勢のくずれ
- ◆スプーンや箸が上手に使えない
- ◆ボタンがかけられない
- ◆儀式のような挨拶
- ◆ニットやタートルネック、Tシャツのタグを嫌がる(感覚の問題)
- ◆極端な偏食(同じおかずしか食べない)など

注意欠如・多動症(AD/HD)について

注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害(DSM-V)

不注意

多動性・衝動性

不注意が目立つタイプ(斎藤ら)

- 忘れ物が多く、物をなくしやすい
- 気が散りやすく、集中力が続かない(同じことの繰り返しが苦手)
- 不注意な間違いをする(計算ミス、“点”や“はね”などの抜け)
- 指示に従えない
- 興味があるものには集中しすぎてしまい、切り替えが難しい
- ポーっとしていて、話を聞いていないように見える
- 行動が他の子よりもワンテンポ遅れる
- 字が乱れる
- 不器用(縄跳びなどが苦手)
- 片付けられない(計画が立てられない)
- あまり目立たないためADHDであることに気づかれにくい
- 女の子に多い傾向がある

多動性・衝動性が目立つタイプ(斎藤ら)

- 落ち着きがなく、授業中立ち歩く
- 体を動かすことがやめられない
- 衝動性が抑えられず、ささいなことで手が出しまったり、大声を出したりする
- しゃべりすぎる・話の内容がコロコロ変わる。
- 待つことが困難(割り込みや指名されていないのに答える)
- 他人を妨害する(大声で主張し、自分が最初にやろうとする)
- 乱暴な子、反抗的、という目で見られやすい
- 力の入れ方がわからず過敏になる。
- 男の子に多い傾向がある
- ADHDの全体の割合からすると少数

混合タイプ(斎藤ら)

- 不注意と、多動性・衝動性の両方のタイプを持つ
- 忘れ物が多く、物をなくしやすい
- 落ち着きがなく、じっとしてられない
- 衝動を抑えられず、順番が守れなかったり、ルールが守れなかったりする
- 小児のADHDの8割はこのタイプといわれる
- 不注意、多動性、衝動性のあわれられ方の度合いは人によって違う

起こりやすい問題(斎藤ら, 2003)

- ◆ 教師や保護者の指示に従えず叱られてばかりいると劣等感をもちやすく、自尊心が低くなりがちになる
- ◆ 特に衝動性が強い場合、友達とトラブルになりやすい(いじめやからかいの対象となることも)
- ◆ 学校などで孤立しやすい
- ◆ かんしゃくを起こしやすくなり、反抗的、挑発的な行動をとるようになる
- ◆ 無力感、不安、情緒不安定

AD/ HDIは要注意

⇒ゲームとネットの依存

・ゲーム障害とは、持続または反復するゲーム行動で、以下の4つの症状を示す。

- ① ゲームのコントロールができない
- ② 他の興味や活動より、ゲームを優先させる。
- ③ (ゲームにより)問題が起きているにもかかわらず、ゲームを続ける。
- ④ 個人、家族、社会、教育、職業やその他の重要な機能に著しい問題が生じている。

・ゲーム障害の下位分類

- ・ゲーム障害のうち、主にオフライン
- ・ゲーム障害のうち、主にオンライン

学習障害(限局性学習症)について

限局性学習症/限局性学習障害(DSM-V)

口頭言語 の問題

- ・聞くことの障がい
- ・話すことの障がい

書字言語 の問題

- ・読むことの障がい
- ・書ことの障がい

算数 の問題

- ・計算の障がい
- ・推論の障がい

特定の部分だけに障がいが見られるのが特徴(他のことは特に問題なし)

「聞く」ことの問題

- ・話された言葉が単語レベル
 - ・文章レベルで理解できない
 - ・文字で示されると理解できる
 - ・複雑な文章の聞き取りができない
 - ・単語の聞き誤りが多い
- など

「話す」ことの問題

- ・筋道立てて話すことができない
 - ・まとまった文章で話すことができない
 - ・余分なことが混じった文章を話す
 - ・同じ内容を違う言い回しで話せない
- など

「読む」ことの問題

- ・文字や単語を発音できない
 - ・あるいは誤った発音をする
 - ・文章の文字や単語を抜かして読む
- など

「書く」ことの問題

- 文字や単語が書けない
 - あるいは誤った文字を書く
- 単語の中に誤った文字が混じる
- 単純な文章しか書けない
- 文法的な誤りの多い文章を書くなど

「計算」ことの問題

- 数値の位や繰り上がり・繰り下がりが理解できない
- 九九を暗記しても計算に使えない
- 縦の筆算がないと計算できない
- 暗算できないなど

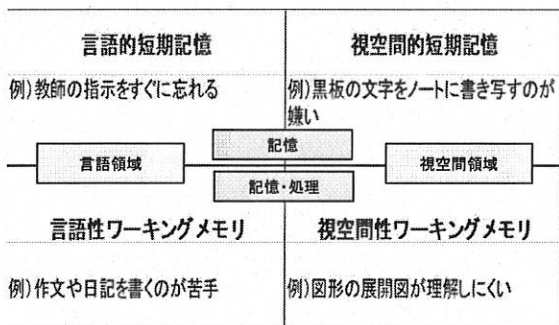
「推論」ことの問題

- 算数の応用問題・証明問題が苦手
- 因果関係の理解・説明が苦手
- 長文読解が苦手
- そこに直接示されていないことを推論するのが苦手など

教室でのアセスメント

-ワーキングメモリーに着目して-

ワーキングメモリの4つの側面 (湯澤ら)



言語性短期記憶の問題

- ◆教師の指示をすぐに忘れる
- ◆国語の時間、読みのミスが多い
- ◆数学の時間、九九がなかなか覚えられない
- ◆外国語活動のときなど、外国語の耳慣れない言葉を真似して繰り返すことが苦手

言語性ワーキングメモリの問題

- ◆話し合いのある活動になかなか入れず、また話についていけない
- ◆作文や日記を書くのが苦手
- ◆国語の時間、読解問題につまずく
- ◆算数の時間、文章題につまずく

視空間的短期記憶の問題

- ◆黒板の文字をノートに書き写しのが遅い
- ◆アナログ時計を読むのに時間がかかる
- ◆算数の時間、三角形や四角形の性質について理解しにくい
- ◆図工の時間、絵や模様などを描き写しのが苦手

視空間的ワーキングメモリの問題

- ◆体育の時間、ラジオ体操やダンス等の一連の動作を覚えるのが苦手
- ◆理科の時間、複数の実験器具を操作しながら実験を行うのが苦手
- ◆算数の時間、図形の展開図が理解しにくい
- ◆生活科の時間、地図を使った学校探検や商店街調べを行うことが難しい

学びのための学びの環境(湯澤ら)

- **学ぶ姿勢の確保**
 - ・ ADHD: 衝動性に対して(バランスボール)
 - ・ ASD: 感覚過敏に対して(低反発クッション、ビーズクッション)
 - ・ 統合運動障がい: 粗大運動の問題に対して(姿勢保持用具)
- **時間の管理**
 - ・ ADHD: 活動の細分化とスケジュール管理
 - ・ ASD・統合運動障がい: 活動の見通しの視覚化
 - ・ ⇒スケジュール表、時計・タイマーなど
- **環境構成**
 - ・ ADHD・ASD: 不要な情報を、視界から除外(パーテーションなど)
 - ・ 統合運動障がい: 見えにくさに対して(文字拡大)
 - ・ 書きにくさに対して(マス目の大きいノート、パソコン、鉛筆の保持を補助する文具など)

ワーキングメモリー(作業記憶)が少ない人への支援上の注意

一度に与える指示の数を減らしてあげること(情報量を減らしてあげる)

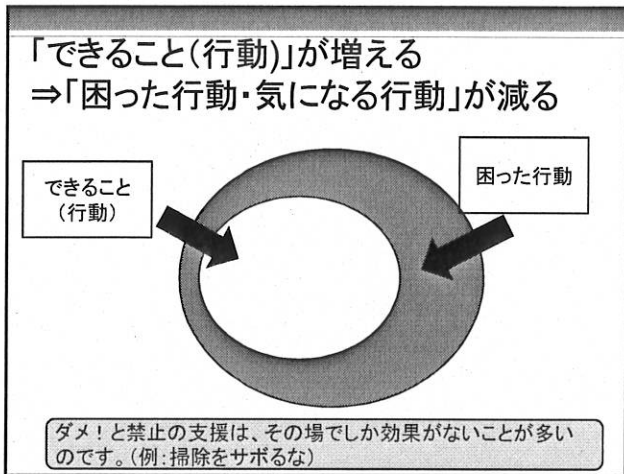
情報が一定のペースで、ゆっくりと与えてあげること

新しい言葉や似たような言葉を覚えることが困難なため、情報に意味を持たせ、慣れ親しむような工夫をしてあげること

何度も同じことを繰り返して、教えてあげること

記憶の補助に役立つツール(ビーズ、そろばん、録音機器、コンピューターソフト等)を活用すること

就職に向けて



発達障がい者(児)の自立とは

- (×) 自分の力だけでなく
- (○) 何かツールなど使って
- (○) 他者の援助をもとに
- (○) 周囲(環境)を変える(わる)ことで

HELP!が言えるようになることが自立に向けて重要です。

ソフトスキルに着目する

ハードスキル

- ・仕事そのものの能力

ソフトスキル

- ・対人関係能力
- ・日常生活能力

ASDの8割がソフトスキルの不足で離職をしている

ソーシャルスキルとライフスキル (梅永2015)

ソーシャルスキルの特徴	ライフスキルの特徴
<p>人間関係の築き方やコミュニケーションのとり方など、他の人と関わるための方法が中心。集団生活のトラブルを減らすことを重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との付き合い方 ・適切な話し方 ・集団行動のときのふるまい方 	<p>健康管理から対人関係まで、生活面のスキルはすべて含まれる。日々の生活を大過なく送っていくことが目標となる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる・眠るなどの基本的な生活習慣 ・生活環境を管理すること ・先の見通しをもって生活すること

ソーシャルスキルの向上には居場所が必要

就労を視野に入れた家庭・高校生活での支援(木谷,2014)

- ・基本は日常生活の過ごし方
 - ・見通しのある計画や時間管理
 - ・家庭でのリフレッシュや趣味の時間
 - ・安心して眠れる
- ・自由な時間の使い方
 - ・計画的に給与を使って自由な時間を過ごすスキルが就労維持に
- ・「働くこと」のイメージ作り
 - ・アルバイト経験や評価のある実習
- ・大人側の「働くこと」へのイメージの变革
 - ・ストレスの予防的支援

体験しておくことが重要

発達障がいがある児童に対する支援のキソ

優先順位の高い支援(辻井,2014)

相談室で話を聴く事よりも、実際の生活の場や就労の場で、**具体的にどうしたらいいのかわかりやすく教えていくこと**

指導は具体的に(松見)

できることを見つけることから始める

できないことはスモールステップで指導する

ほめて伸ばす支援

適切な支援には環境の調整も大切です

スモールステップ

- ・行動をできるだけ細かいステップに分け、一つずつ無理なく達成できるように工夫し、目標行動に近づけていくこと
- ・ゴールを明確にすることで達成感もあがります。

トイレに行きたいことを要求する
→トイレに行く→電気をつける→ズボンを脱ぐ→パンツを脱ぐ→便座に座り用を足す→水を流す→パンツをはく→ズボンをはく→電気を消す→手を洗う



基本的な関わり方

わかりやすい	わかりにくい
具体的指示	抽象的指示
ことばと視覚	ことば中心
目的のある活動	自由活動
一貫性のある対応	場当たりの対応

誰と、いつ、どこで、どのように、どんな方法で、どの程度、どのくらい、などを具体的にに入れて伝える

コミュニケーションの仕方の基本(一部)

- ◆まず、注意をひきつける(名前を読んで、こちらを向いているのを確認してから、指示を出す)
- ◆横につき、個別に指示を出す(全体に言うと、聞こえない・聞かない)
- ◆支援者は指示をくり返す(時々、確認してあげる)
- ◆一度にたくさんの指示は出さない(WMの問題)
- ◆指示語(それ、これ、あれ等)は使用しない(何を指すのかわからない)
- ◆あいまいな言葉を使用せず、具体的に(形容詞・副詞は控えめに)
- ◆うまく行った場合、すぐに褒める(うまく出来かけた時点でも可)

コミュニケーションの仕方の基本(一部)

- ◆主語を省かず、短い言葉(箇条書き)で説明する
- ◆目標(ゴール)を明確にしてあげる(成功と失敗が本人にわかるように)
- ◆見通しをつけてあげる(段取りをつけてあげる・目の見える場所に)
- ◆視覚支援をする(画像、動画、図・表を効果的に用いる)
- ◆理解を丁寧に確認する(わかったフリで適応しているように見えることも)
- ◆「～するな」と否定文ではなく「～する」と肯定文で
- ◆フィードバックをする(先生と一緒に振り返る)

障がい別の基本的な対応のまとめ

ASD

- 視覚的なアプローチ(絵カード等の利用)
- 構造化(時間の流れや物の順番や位置などを整理する)

AD/HD

- 環境調整(不要な感覚刺激を減らし、集中しやすい空間づくり)

LD

- 教材の工夫やデジタル機器の活用など

ご清聴ありがとうございました。